



26 亀井唯次郎(銅製鉢・高橋凌雲)

《珊瑚樹鉢植置物》

一点

明治三十六年(一九〇三)

珊瑚・玉石・銅・鑄造

珊瑚樹・四二・〇×六八・〇×五三・〇

鉢・二九・五×四六・六×一〇・〇

高知県 第三部

本作は当初は美術として出品されたものではなかったが、第五回内国博へ出品され御買上となったのち、宮中で美術品へと作り替えられた品である。内国博へ出品されたときから、この鉢植えの状態だったわけではなく、第三部水産に出品されたのは珊瑚の部分のみであった。亀井唯次郎はこの珊瑚樹を出品した人物である。宝飾品の材料となる寶石珊瑚は高値で取引され、わが国でも明治期以降、急速に採取漁業が発達した。特に土佐沖には赤珊瑚と桃色珊瑚の原木が生息しており、その色合いと品質の高さから海外へ大量に輸出された。本作を収める外箱には大正三年十月に、現状の鉢植置物へ仕立てられたことが記されている。波しぶきがあがる様を陽鑄した銅製鉢は、明治から大正期に活躍した鍍金家の高橋凌雲の作である。

『明治天皇紀』によると、第五回内国博へ行幸になった明治天皇は、四月二十七日に水産館をご覧になり、この珊瑚を御買上になった。その後、同年八月十一日に明治宮殿鳳凰の間に内国博水産部の御買上品が陳列される機会があり、ふたたび天皇をご覧になっている。本作以外にも、当館には、明治三十年の水産博覧会出品の珊瑚樹が、鉢植置物に仕立てられた品があり、明治天皇のお好みの意匠とつたえられる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections